

科目名	GCB I						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	前園 勝稔、北島 仁宇、毛利 俊司 小淵 洋子、染矢 裕美子、村上 香代、川野 啓祐		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科・情報システム専攻科・情報工学科 1年						
授業概要	「感謝と思いやり」「自分のあり方」について講義、DVD、書籍を活用しながら、自ら考え、気づいたり、クラス内で話し合いや発表を行う。感謝と責任感、他者への思いやりを日常生活でカタチとして表現・実践できるようにする。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					キャリア実現の鍵は専門能力および発揮できる力(人間)であることを説明できる	
	○	○				感謝心が人間力の根底であることを説明できる	
	○	○				人間力を高めるためのマナーの重要性を説明できる	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシック I (麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	グローバルシティズンを目指そう					
	2	「協働」の態度を持った学生生活					
	3	よりよい人間関係の構築に向けて～モラル・ルール・マナーの重要性～				グループワークのテーマについて自分の考えをまとめてくること(30分)	
	4	マナーの本質 I					
	5	マナーの本質 II					
	6	グローバルシティズンとしての日常					
	7	グローバルシティズンとしての目標				自分の目標をまとめてくること(30分)	
	8	グローバルシティズンとしての「志」に向けて					
	9						
	10						
	11						
	12						
	13						
	14						
15							
評価方法	(1)課題・レポートを数回実施する (2)受講状況を評価する 以下を上記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	○	○		◎		80%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	機械学習A						
科目名(英)							
単位数	2単位	時間数	30時間	担当者	山下 文夫		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	機械学習の種類や学習モデルから計算結果を得るため基本手法について学ぶ。本科目の学習後にサーティファイ主催AI検定を受験する。						
	iCDタスクコード		AI03.3.1、AI03.3.2、AI03.3.3				
授業形式	講義：○	演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				機械学習の手法の種類を説明できる	
	○	○				AIに関する基礎的な用語問題を答えることができる	
テキスト・教材 参考図書	アイデミー『機械学習&ディープラーニングのしくみと技術がこれ1冊でしっかりわかる教科書』技術評論社、2019 『AI・機械学習入門』インフォテック・サーブ、2021						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	人工知能の基礎知識					
	2	機械学習の基礎知識					
	3	開発環境の構築					
	4	Numpy(数値計算ライブラリ)					
	5	Matplotlib(グラフ描画ライブラリ)					
	6	Pandas(データ解析支援ライブラリ)					
	7	基本統計量				3つのライブラリの違いを復習すること	
	8	scikit-learnを用いた機械学習プログラミング					
	9	分類 Kmeansの適用(アヤメの分類)					
	10	回帰分析(ボストン住宅価格)					
	11	線形回帰分析					
	12	重回帰分析					
	13	交差検証法					
	14	AI基礎知識				実行した分析手法の違いを復習すること	
	15	AI基礎知識(続き)					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)小テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				60%
	小テスト	○	◎				20%
	受講状況				○		20%
履修上の注意							

科目名	AIプログラミング演習									
科目名(英)										
単位数	4単位		時間数		60時間		担当者		元田 真史	
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年									
授業概要	AI(機械学習)の実装で最もよく利用されるPythonについて学習し、Python3エンジニア認定基礎試験に合格できる知識を習得する。また、プログラム作成の演習を通してPythonの実装スキルも身につける。									
	iCDタスクコード		AI03.3.2							
授業形式	講義: △		演習: ○		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
		○				Pythonの特徴について説明することができる。				
		○				Pythonを利用して構造化プログラミングを実践することができる。				
		○				与えられた関数仕様を満たすPythonのプログラムを実装することができる。				
		○				Pythonのモジュールを利用することができる。				
テキスト・教材 参考図書	三谷 純『Python ゼロからはじめるプログラミング』翔泳社、2021									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	Pythonに触れる								
	2-3	Pythonの基本								
	4-5	条件分岐と繰り返し(条件分岐と論理演算)								
	6-7	条件分岐と繰り返し(処理の繰り返し)								
	8-9	組み込み型とオブジェクト(文字列操作、リストとタプル)								
	10-11	組み込み型とオブジェクト(辞書と集合、基本型の性質)								
	12-13	ユーザー定義関数(関数の基本)								
	14-15	ユーザー定義関数(関数の応用)					これまでの授業内容の復習を行うこと(2時間)			
	16-17	プログラム作成演習								
	18-20	クラスの基本(クラスとメソッド)								
	21-23	クラスの基本(継承)								
	24	発展と応用(例外処理、ファイルの読み書き)					これまでの授業内容の復習を行うこと(2時間)			
	25-26	検定試験対策								
	27-29	模擬試験								
	30	総復習								
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)プログラム作成演習を実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報		知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合		
	定期試験			◎				60%		
	プログラム作成演習			◎				20%		
	受講状況					◎		20%		
履修上の注意	PCを持参すること(学校PCでも可)。									

科目名	統計学						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	山下 文夫
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	統計学分野の用語や考え方について体系的に学習し、演習問題を活用して知識の習熟を高める。						
	iCDタスクコード		AI03.4.2				
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○					統計学の分野の各用語を説明できる	
	○	○				統計学の分野の各問題を解くことができる	
テキスト・教材 参考図書	涌井 良幸, 涌井 貞美 『文系のための統計学の教室』 SBクリエイティブ、2020 演習環境: Excel						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	統計学の基本① 質的データと量的データ					
	2	統計学の基本② いろいろなグラフ					
	3	統計学の基本③ 代表値					
	4	統計学の基本④ 分布の広がり					
	5	推測統計学① 確率変数					
	6	推測統計学② 確率分布、正規分布					
	7	推測統計学③ 母集団分布と標本分布					
	8	統計的推定① 点推定と区間推定					
	9	統計的推定② 実用的な推定					
	10	統計的検定① 仮説と過誤					
	11	統計的検定② 実用的な検定					
	12	相関分析					
	13	多変量解析					
	14	回帰分析					
	15	ベイズ統計					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを2回実施する。(3)授業中に出题した課題の提出を求める。(4)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				40%
	確認テスト	◎	◎				20%
	課題・レポート	◎	◎		○		20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							

科目名	AIサービス演習						
科目名(英)							
単位数	4単位	時間数	60時間	担当者	元田 真史		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	AWSの機械学習サービスについて学習する。AWS Academy Machine Learning Foundationの講座を学習し、機械学習の概念と用語を理解する。また、同講座のハンズオン演習により、各種サービスの利用方法を習得する。						
	iCDタスクコード		AI03.3.1、AI03.3.2、AI03.3.3				
授業形式	講義：△	演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					機械学習について説明できる。	
	○					AmazonSageMakerを使用して機械学習パイプラインを実装することができる。	
	○					AWSの機械学習サービスを予測・コンピュータービジョン・自然言語処理に使用できる。	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	AMLFの概要					
	2-3	機械学習の紹介					
	4-6	Amazon SageMaker(データの収集～トレーニング)					
	7-8	Amazon SageMaker(評価とチューニング)				これまでの授業内容を復習すること(2時間)	
	9-11	Amazon SageMaker演習(アルゴリズムの選択とトレーニング)					
	12-13	Amazon Forecast(予測の導入)					
	14-15	Amazon Rekognition(コンピュータービジョンの導入)					
	16-17	Amazon Rekognition演習(画像分類)					
	18-19	Amazon Polly/Comprehend/Translate(自然言語処理の導入)				これまでの授業内容を復習すること(2時間)	
	20-21	AIサービスの実装例					
	22-29	オリジナルのAIサービスの開発					
	30	成果発表					
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)知識確認テストを実施する。(3)AIサービス開発演習を実施する。(4)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。					
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
定期試験			◎				30%
知識確認テスト			◎				20%
プログラム課題			◎				30%
受講状況					◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを持参すること(学校PCでも可)。						

科目名	データベース演習							
科目名(英)								
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	柴内 加代	
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年							
授業概要	表検索、表結合、表作成などの基本的なSQL操作をステップアップ形式で学習する。実行環境を作成し、毎回、SQL操作結果を確認しながら、目的に応じた表操作ができることを目指す。 更にデータベース設計の知識やプログラミングとの関連性も学びながら、後期の企業連携授業へと繋げる。							
	iCDタスクコード		DV05.2.3, DV05.2.4, DV08.2.2, DV08.2.3					
授業形式	講義: △		演習: ○	実習:		実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○	○				記述されたSQL文を理解できる		
	○	◎				要求されるデータ操作や表定義のSQL文を記述できる		
	○	◎				データモデルや正規化の知識を元にデータベース設計ができる		
テキスト・教材 参考図書	SQL ゼロからはじめるデータベース操作(翔泳社)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1 2	データベースの構成と特徴、実行環境の作成						
	3 4	データの追加・変更・削除						
	5 6	データの削除、確認テスト					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	7 8	テーブル作成 基本						
	9 10	テーブル作成 応用(参照制約、インデックス)						
	11 12	確認テスト、SELECT文_検索1					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	13 14	SELECT文_検索2、グループ化						
	15 16	SELECT文_整列、副問合せ						
	17 18	SELECT文_結合						
	19 20	SELECT文_CASE式、ビュー						
	21 22	確認テスト、データベース設計(正規化)					授業内容に係る確認テストを実施するので、復習しておくこと	
	23 24	データベース設計(E-R図、フィールド、制約)						
	25 26	データベース設計(テーブル定義書)						
	27 28	総合演習 SQL						
	29 30	総合演習 設計、総復習						
	評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 (2)確認テスト3回実施する。 (3)授業内に課題演習を指示し、課題の完成度や提出状況を確認する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
定期試験		○	◎				30%	
確認テスト		○	◎				20%	
課題演習				◎	◎		40%	
受講状況					◎		10%	
履修上の注意								

科目名	Webプログラミング演習ⅡA						
科目名(英)							
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	小井手 武治
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	IT企業のエンジニアとして勤務
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	テキストとオリジナル教材で講義と演習を行い、PHPを活用したWebアプリケーション開発の基礎修得を目指す。達成スキル表を提示し、技術習得の見える化を行っていく。外部Webサーバで動作確認を行いながらWebアプリケーションの理解を深める。また、演習問題を実施して、知識の定着を図る。						
	iCDタスクコード		DV08.2.1, DV08.5.1, DV08.5.2, DV08.5.3, DV08.5.4				
授業形式	講義：△		演習：○	実習：		実技：	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	◎	○				Webアプリケーションの仕組みを説明することができる	
	○	◎				PHPの基本的な知識(基本構文、制御構文等)を利用したプログラムを作成できる	
		◎				PHPフォームを利用した入出力操作のプログラムを作成できる	
		◎				外部Webサーバ上のデータベースを操作することができる	
テキスト・教材 参考図書	確かな力が身につくPHP「超」入門(SBクリエイティブ)						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1-2	外部サーバのアカウント作成、Webサーバの仕組みについて					
	3-4	リクエスト・レスポンス、HTMLの復習					
	5-6	PHPフォーム作成、文字コード					
	7-8	乱数、基本ステートメント					
	9-10	フォーム操作1					
	11-12	フォーム操作2					
	13-14	フォーム操作3					
	15-16	フォーム操作4、課題作成					演習課題を提出すること
	17-18	日付処理、正規表現					
	19-20	課題作成					演習課題を提出すること
	21-22	効率的なプログラミング					
	23-24	外部データベースの操作1					
	25-26	外部データベースの操作2					
	27-28	外部データベースとの連携1					
	29-30	外部データベースとの連携2					
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する(2)プログラミング課題を数回実施する(3)受講状況を評価する 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	◎				30%
	課題演習	○	◎		◎		60%
	受講状況				◎		10%
履修上の注意							

科目名	GCBⅡ						
科目名(英)							
単位数	1単位	時間数	16時間	担当者	元田 真史		
実施年度	2022年度	実施時期	前期	担当者実務経験			
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	「志の教育」を通して、以下の3つの力を持つグローバルシティズンを目指す ①歴史の理解とグローバル化を見据えた広い視野・知識と深い洞察力 ②未来からの反射を踏まえた自分像に向けて自己を革新する成長力 ③与えられた環境で可能性を見出し、貢献する行動力 iCDタスクコード 該当なし						
授業形式	講義： ○	演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○					考えることの大切さを理解することができる。	
	○					自分の言葉で伝える大切さを理解することができる。	
	○					目標の大切さ、志の大切さを理解することができる。	
	○					行動する大切さを理解することができる。	
テキスト・教材 参考図書	グローバルシティズンベーシックⅡ(麻生塾)						
授業計画	回数	授業項目・内容			授業外学修指示		
	1	グローバルシティズンと志			振り返りレポート		
	2	なぜ志を立てることが大切なのか			振り返りレポート		
	3	自己を知る			振り返りレポート		
	4	伝える力を学ぶ(1)			振り返りレポート		
	5	伝える力を学ぶ(2)			振り返りレポート		
	6	与えられた一度の人生に感謝し、志高く生きる			振り返りレポート		
	7	自己の大切さと責任を自覚する			振り返りレポート		
	8	GCBⅡを受講して、私が感じたこと・気づいたこと・学んだこと			振り返りレポート		
評価方法	(1)毎回の授業でレポートを指示する。(2)授業で取り組むグループワークや発表内容を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		◎		○		80%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを持参すること(学校PCでも可)。						

科目名	ゼミナールⅡA						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	元田 真史
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	学校生活を送る上での基盤となる力や社会で働く力を育む。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
				○		人間関係を自主的、実践的により良いものへと形成できる	
	○			○		社会的・職業的自立の意義を理解し説明できる	
	○			○		社会生活を営む上で必要なマナーやルールを理解し説明できる	
テキスト・教材 参考図書	なし						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	クラス内オリエンテーション 年間ターム確認				前期の目標を検討すること(1時間)	
	2	クラス内オリエンテーション 年間目標作成					
	3	就職準備 職種研究					
	4	就職準備 企業研究				調査レポートを作成すること(1時間)	
	5	クラス内コミュニケーション①					
	6	クラス内コミュニケーション②					
	7	業界理解 ICT技術研究①					
	8	業界理解 ICT技術研究②				調査レポートを作成すること(1時間)	
	9	クラス内グループワーク①					
	10	クラス内グループワーク②					
	11	キャリアプランニング					
	12	クラス内勉強会 検定試験対策①					
	13	クラス内勉強会 検定試験対策②					
	14	クラス内勉強会 検定試験対策③					
	15	クラス内勉強会 期末試験対策					
評価方法	(1)授業内でレポートを指示する。(2)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	レポート		○				80%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。 PCを持参すること(学校PCでも可)。						

科目名	ビジネスコミュニケーションⅠ						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	30時間		担当者	川原 ユウジ
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科AIプログラミング専攻2年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻2年・情報工学科AI&IoT専攻2年・情報システム科AIプログラミング専攻アドバンスコース1年・情報システム専攻科AIエンジニア専攻アドバンスコース1年						
授業概要	自己のふるまいを見直し、社会人として、より良いコミュニケーション力を育む。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
				○		きちんと声を出して挨拶ができる	
	○			○		効果的な自己PRができる	
	○			○		相手に伝わる表現や話し方ができる	
テキスト・教材 参考図書	ウイネット『コミュニケーション技法』ウイネット、2009						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	序章「コミュニケーションしてみよう」【印象交換】					コミュニケーションについて、自分なりインターネットや本で調べる
	2	「コミュニケーションの基本」【ア行で話そう】					
	3	「コミュニケーションの基本」【絵で話そう】					
	4	「コミュニケーションの基本」【あいさつとマナー】					
	5	「コミュニケーションの基本」【あいさつの達人】					コミュニケーションの基本について復習を行なう
	6	「きれいな発声・発音を身につけよう」【話し方チェック】					
	7	「正しい日本語を身につけよう」【日本語を考える】					
	8	「正しい日本語を身につけよう」【正しい言葉遣い】					
	9	「正しい日本語を身につけよう」【敬語をマスター】					プレゼンテーション内容を事前に考える
	10	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション①】					
	11	「話すときの心構えを理解」【プレゼンテーション②】					
	12	「効果的な話し方を身につけよう」【5W2Hで話す】					
	13	「効果的な話し方を身につけよう」【AIDMAの法則】					
	14	「効果的な表現力を身につけよう」【態度と目線】					
	15	「効果的な表現力を身につけよう」【ゼスチャー】					
評価方法	(1)課題・レポートを実施する。(2)小テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、R(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	課題・レポート	○			○		55%
	小テスト	○					25%
	受講状況				○		20%
履修上の注意	再試験は実施しない。						

科目名	一般教養ⅡA											
科目名(英)												
単位数	2単位		時間数		30時間		担当者		畠添 正和			
実施年度	2022年度		実施時期		前期		担当者実務経験					
対象学科・学年	情報工学科 2年・情報システム専攻科 2年・情報システム科 2年 情報システム科アドバンスコース1年、情報システム専攻科アドバンスコース1年											
授業概要	就職筆記試験における「SPIテスト」の対策を行う。 (1)非言語(数学)分野:計算を「基本通りに行い」答えを求める手順を確認する。 (2)言語(国語)分野:出題パターンの確認及び練習問題を演習する。 中間に授業内評価テスト(2回:各30分)及び期末試験を実施し、理解度を把握し、フォローアップする。 iCDタスクコード 該当なし(基礎知識全般)											
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△			
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標						
	○	○				言語(数学)分野・非言語(国語)分野の問題に対して、解答を説明できること。						
テキスト・教材 参考図書	最新最強のSPIクリア問題集(成美堂出版)											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	就職筆記試験について、SPIテキストの構成・内容の確認 数学分野(1:仕事算)										
	2	国語分野(1:二語の関係①)、数学分野(2:鶴亀算)・連立方程式の演習										
	3	国語分野(2:二語の関係②)、数学分野(3:損益算)										
	4	国語分野(3:文法)、数学分野(4:速さ・時間・距離)					授業内評価テストの範囲を復習しておくこと					
	5	授業内評価テスト①(数学1~4) 社会:政治経済国語分野(4:語句の意味)、数学分野(5:場合の数)										
	6	国語分野(5:短文の穴埋め)、数学分野(6:確率)					授業内評価テストの範囲を復習しておくこと					
	7	授業内評価テスト②(数学5~6)授業内評価テストテスト										
	8	授業内評価テストテスト①②見直し&フォローアップ 国語分野(6:文章整序)										
	9	国語分野(6:文章整序)、数学分野(7:精算と割引料金)										
	10	国語分野(7:空欄補充)、数学分野(8:分割払い)										
	11	国語分野(8:長文読解)、数学分野(19:参考問題1)										
	12	国語分野(9:参考問題)、数学分野(19:参考問題2)										
	13	数学分野(13:集合)										
	14	数学分野(15:ブラックボックス、17:物の流れと比率)										
	15	期末試験対策										
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)授業の中で授業内評価テストを実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験(筆記)	◎		◎								50%
	授業内評価テスト	◎		◎								30%
	受講状況							◎				20%
履修上の注意												

科目名	セキュリティ基礎							
科目名(英)								
単位数	4単位		時間数	60時間		担当者	木村 浩昌	
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験		
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2年・情報工学科2年・ 情報システム科アドバンスコース1年・情報システム専攻科アドバンスコース1年							
授業概要	情報セキュリティにおける各分野の基礎レベルの知識を習得する。セキュリティに関する問題点と対処方法を説明することができる。ITベンダーやシステムインテグレーターなどの担当者と専門分野の会話が問題なくできるスキルを身に付ける。また、経済産業省主催 情報セキュリティマネジメント試験の合格を目指す。							
	iCDタスクコード		該当なし					
授業形式	講義： ○		演習：	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
	○					セキュリティの専門用語について学び、意味を説明することができる。		
		○				不正アクセスの具体例とそれらを防ぐための仕組みや技術について説明することができる。		
		○				暗号技術の理論を学び、その仕組みを説明することができる。		
		○				セキュリティ上の脅威における問題点と対処法について説明することができる。		
テキスト・教材 参考図書	徹底攻略 情報セキュリティマネジメント 教科書 令和4年度(インプレス)							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	第1章 情報セキュリティの基礎知識(1)						
	2	第1章 情報セキュリティの基礎知識(2)						
	3	第2章 情報セキュリティ管理(1)						
	4	第2章 情報セキュリティ管理(2)						
	5	第3章 情報セキュリティ対策(1)						
	6	第3章 情報セキュリティ対策(2)					1から3章までの用語の意味を確認しておく	
	7	第4章 法務(1)						
	8	第4章 法務(2)					4章の用語の意味を確認しておく	
	9	第5章 マネジメント(1)						
	10	第5章 マネジメント(2)						
	11	第6章 テクノロジ(1)						
	12	第6章 テクノロジ(2)					5から6章までの用語の意味を確認しておく	
	13	第7章 ストラテジ(1)						
	14	第7章 ストラテジ(2)					7章の用語の意味を確認しておく	
	15	総復習						
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)課題・レポートを実施する。(3)受講状況进行评估する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	○					50%	
	課題・レポート	○	◎		○		30%	
	受講状況				◎		20%	
履修上の注意								

科目名	情報処理試験対策秋対策A						
科目名(英)							
単位数	2単位		時間数	32時間		担当者	川野 啓祐・姫野 マリ
実施年度	2022年度		実施時期	前期		担当者実務経験	
対象学科・学年	情報システム科2年・情報システム専攻科2,3年・情報工学科2,3,4年 情報システム科アドバンスコース1,2年・情報システム専攻科アドバンスコース1,2,3年						
授業概要	経済産業省主催 情報処理技術者試験の出題範囲に準拠し、各受験区分のレベルに応じた用語や知識の習得を行う。さらに演習問題を使用し、実践的な解答方法の演習を行う。						
	iCDタスクコード		該当なし				
授業形式	講義：△		演習：○	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				試験範囲内の専門用語について学び、意味を説明することができる。	
		○				試験範囲内における様々なIT技術に関する仕組みについて説明することができる。	
テキスト・教材 参考図書	各受験区分で指示があります。						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1～8	IPAが提示するシラバスに掲載されている用語を理解し覚える。覚えた用語の定着のために、午前問題を中心とした演習を実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
	9～16	理解し、覚えた用語を実践的に使用する演習を、基礎的な難易度の午後問題を中心に実施する。				分からなかった部分の復習をしておくこと。	
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。(2)確認テストを数回実施する。(3)受講状況を評価する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、S(90点以上)・A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	◎				60%
	確認テスト	○	◎				20%
	受講状況				◎		20%
履修上の注意							